

不明熱，腹水，血小板減少を呈し，診断，治療に苦渋した C型肝硬変を併発したTAFRO症候群の1剖検例

大西 杏佳

杏林大学医学部6年

この度は，第15回学生リサーチ賞を賜り，大変光栄に存じます。ご選考いただきました先生方，杏林医学会の先生方，関係者の皆様にご心より御礼申し上げます。また臨床研究から学会発表（医学生・研修医・専攻医の日本内科学会ことはじめ2025），論文作成に至るまでご指導いただきました久松理一教授，森久保拓先生をはじめ，共同著者の先生方に深く感謝申し上げます。

本研究は顕著な血小板減少および肝硬変に伴う特発性細菌性腹膜炎に対する抗菌薬治療に反応がみられなかったことを契機に診断に至った，TAFRO症候群と肝硬変を併発した症例を報告したものです。TAFRO症候群は全身性炎症，血小板減少，腎機能障害，臓器腫大などを特徴として急速に進行し，適切な治療介入が遅れると致死的となり得る希少疾患です。一方で，診断は悪性疾患や自己免疫疾患などの除外診断を前提としており，基礎疾患を有する症例では診断が著しく困難となります。

本症例では肝硬変による血小板減少が存在しており，さらに進行した血小板減少が原疾患によるものか，あるいは別の病態によるものかの鑑別が重要な課題でした。背景疾

患を有する症例においては，診断基準を形式的に満たすか否かだけでなく，臨床経過を丁寧に追いながら総合的に判断することが求められました。疾患概念の理解はもとより，合致しない臨床所見がある場合，一元的な病態として捉えるのではなく，多角的に診断推論を重ねることで真の病態診断へ近づくことができることを学びました。

学会発表，論文化の過程では，臨床症状を客観的に整理し，なぜ本症例では早期診断に至らなかったのか，どの段階で鑑別に挙げるべきであったかを振り返り考察することができました。また疾患概念が新しい希少疾患では，認知度の低さが診断や治療開始の遅れにつながり治療成績に直結し得るため，症例報告を通じて疾患の認知を高めることの意義も学びました。

今回の受賞を励みに，今後も臨床と研究の双方に真摯に向き合い，症例を大切にす姿勢を忘れず研鑽を積んでまいります。

【指導教員】医学部消化器内科学教室 教授 久松理一，助教 森久保拓